

## 2015 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6月21日	(1) 議長の互選について (2) 2014 年度事業報告について (3) 2014 年度計算書類（2014 年度計算書類、附属書類〔計算書類関係〕）について
第一回臨時 3月26日	(1) 議長の互選について (2) 2016 年度事業計画について (3) 2016 年度計算書類（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議内容
第一回通常 6月7日	(1)2014 年度事業報告（案）について (2)2014 年度計算書類（案）（2014 年度計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3)2015 年度定時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第二回通常 9月13日	(1)2015 年度学会奨励賞受賞者決定について (2)2015 年度研究大会会場・業務委託に関する契約について (3)科学研究費補助金「国際情報発信強化（B）」について (4)新入会員の承認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

第一回臨時 10月30日	(1)『国際政治』投稿論文執筆要領改訂について (2)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (3)2015年度研究大会の実施状況について報告
第二回臨時 12月6日	(1)2015年度研究大会実行委員会会計決算について (2)2015年度第一回臨時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第三回通常 3月5日	(1)2016年度事業計画(案)について (2)2016年度計算書類(案)(計算書類、付属明細書〔計算書類関係〕)について (3)新入会員の承認 (4)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

10月31日、仙台市仙台国際センターにおいて会員総会を開催した。

(1) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行部数
7月20日	Newsletter 144号刊行	会員	2,200部
10月15日	Newsletter 145号刊行	会員	2,200部
1月25日	Newsletter 146号刊行	会員	2,200部
4月20日	Newsletter 147号刊行	会員	学会サイト 公開

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内9件、理事会・委員会からの連絡23件、研究大会の関連情報24件、シンポジウム等の案内や公募情報43件、合計99件の発信をおこなった。

## (2) 会員数の状況

2015 年度新入会員	84 名
退会者	78 名

### 内訳

会員区分	人数
維持会員	0
一般会員	1,557
学生会員	324
シニア会員	124
夫婦会員	30
合計	2,035

2016 年 3 月 31 日現在

## 2. 事業の成果

### (1) 継続 1. 機関誌・書籍発行业業

1. 和文機関紙『国際政治』181号「国際政治における合理的選択」、182号「転換期のヨーロッパ統合」、183号「新興国台頭と国際秩序の変遷」、184号「国際政治研究の先端 13」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、184号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム（J-STAGE）を活用して、すでに公開された『国際政治』のバックナンバーを今期は180号まで公開した。

3. 英文機関紙 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.15.No.2、同 No.3、Vol.16.No.1 の計 3 冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. 本年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費（国際情報発信強化）」を利用して次の事業を行った。①英文ジャーナル編集委員会の海外委員と会議を行い、投稿の促進や編集体制などについて協議した。②2016年研究大会（幕張）時における学会創設60周年記念部会に基づくIRAP特集号について、海外研究者と議論を行い、情報を収集した。③研究大会（仙台市）においてIRAP英語部会を開催し、海外招聘者を含む研究者が報告し議論した。④IRAPの国際的な認

知度を高めるために、オックスフォード大学出版局 (OUP) に協力を依頼して、海外の研究者に対する *IRAP* の情報提供やウェブでのキャンペーンなどを行った。

5. *IRAP* のインパクト・ファクターが昨年夏に発表され、*International Relations* 分野の 85 誌中 40 位となった。

## (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10 月 30 日～11 月 1 日に仙台市仙台国際センターにおいて、研究大会を開催した。大会参加者は、事前参加登録 450 名、当日登録 211 名、合計 661 名 (市民講座への参加者を含む)、懇親会参加者数は計 306 名であった。セッション数は共通論題 1、部会 16、分科会 31 企画となった。部会 15「集団安全保障の展開と現状」を市民公開講座として一般に公開し、共通論題を「日本の安全保障―戦後 70 年からどこに向かうのか―」と題して、会員の共通の関心に沿ったテーマとし報告、討論を行った。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

## (3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、3名の会員に助成を行った。

2. KAIS (韓国国際関係学会) との交流を行った。12 月 11 日には韓国 (ソウル市) における KAIS 研究大会に理事長、国際交流委員会主任ら 3 名が参加し、日韓合同パネルが実施され、充実した学術交流となった。また、研究大会 (仙台市、11 月 28 日) では、日韓合同部会“*Re-examining Korea and Japanese Grand Strategies*”を開催し、KAIS から 3 名、日本国際政治学会から 3 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会 (仙台市) では、日韓合同部会の開催について江草基金より研究集会助成を受けた。

4. *International Studies Association (ISA)*、*WISC (World International Studies Committee)* など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

## (4)他 1. 研究活動奨励事業

2015 年度の第 8 回学会奨励賞を、佐藤悠子会員の「文化大革命期中国におけるアインシュタイン批判」(『国際政治』179 号) に授与した。本賞は 2008 年度

に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手執筆者を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する *World Political Science Review* に学会から推薦される。また、2014年度第7回学会奨励賞を授賞した石田会員による論文英訳に対して助成を行った。

## 2. 処務の概要

### (1) 役員等に関する事項

#### 2015年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	中西 寛	京都大学教授
副理事長	石田 淳	東京大学教授
理事	飯田 敬輔	東京大学教授
	遠藤 乾	北海道大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	大島（岡本）美穂	津田塾大学教授
	大矢根 聡	同志社大学教授
	川島 真	東京大学教授
	佐々木 卓也	立教大学教授
	篠原 初枝	早稲田大学教授
	田村 慶子	北九州市立大学教授
	都丸 潤子	早稲田大学教授
	細谷 雄一	慶應義塾大学教授
	山田 敦	一橋大学教授

監事	太田 宏	早稲田大学教授
	庄司 潤一郎	防衛研究所戦史研究センター長

評議員	赤木 完爾	慶應義塾大学教授
	五百旗頭 眞	熊本県立大学学長
	猪口 孝	新潟県立大学学長
	遠藤 誠治	成蹊大学教授
	大芝 亮	一橋大学教授
	木畑 洋一	成城大学教授
	久保 文明	東京大学教授

	<p>國分 良成          古城 (久具) 佳子          坂元 一哉          下斗米 伸夫          添谷 芳秀          高原 明生          竹中 (藤原) 千春          田所 昌幸          田中 明彦          藤原 帰一</p>	<p>防衛大学校校長          東京大学教授          大阪大学教授          法政大学教授          慶應義塾大学教授          東京大学教授          立教大学教授          慶應義塾大学教授          独立行政法人国際協力機構理事長          東京大学教授</p>
--	--	---

【一般財団法人 日本国際政治学会】

## 2015 年度事業報告・付属明細書

日本国際政治学会 2015 年度研究大会 共通論題・部会プログラム

---

10 月 30 日 (金)

---

受付開始： 12 : 00

午後の部会 (13:00～15:30)

### 部会 1 国際組織と国際秩序—1940 年代再考

司会 大芝亮 (青山学院大学)

報告 細谷雄一 (慶應義塾大学)

「普遍主義と地域主義の交錯—国連創設とイギリス」

三牧聖子 (関西外国語大学)

「アメリカの理想と国際組織」

討論 山田哲也 (南山大学)

半澤朝彦 (明治学院大学)

### 部会 2 古典的国際政治論の『英国学派』からの解放

司会 小川浩之 (東京大学)

報告 西村邦行 (北海道教育大学)

「なぜ『アメリカの社会科学』に抗すべきでないか—記号としての英国学派とその限界」

葛谷彩 (明治学院大学)

「H・バターフィールドと高坂正堯の国際政治論—ドイツの知的伝統の視点から」

宮下豊 (所属なし)

「現状の防衛という自己義認—H・バターフィールドの政治的判断について」

討論 大中真 (桜美林大学)

宮下雄一郎 (松山大学)

### 部会 3 ASEAN 共同体設立と東アジア地域秩序

司会 大庭三枝 (東京理科大学)

報告 川島真 (東京大学)

「中国の対東南アジア・ASEAN 外交（仮）」

清水一史（九州大学）

「ASEAN 経済統合と東アジア」

鈴木早苗（アジア経済研究所）

「ASEAN 協力の展開と東アジア」

討論 山影進（青山学院大学）

佐橋亮（神奈川大学）

中山俊宏（慶應義塾大学）

#### 部会 4 対脆弱国家支援における「ハイブリッドな連携」—開発援助と安全保障をつなぐ安定化活動の課題

司会 吉崎知典（防衛省防衛研究所）

報告 藤重博美（法政大学）

「ハイブリッドな連携の国際的潮流—英国（開発中心）と米国（安全保障中心）の事例を中心に」

上杉勇司（早稲田大学）

「日本のハイブリッドな連携—"All Japan" の現状と限界、今後への課題」

安富淳（平和・安全保障研究所）

「『ハイブリッドな連携』をめぐる理論的考察」

討論 落合直之（国際協力機構）

川口智恵（国際協力機構）

#### 部会 5 ヨーロッパにおけるガバナンスの現在（自由論題部会）

司会・討論 森井裕一（東京大学）

報告 佐藤良輔（神戸大学）

「ヨーロッパにおける移民統合政策の変容—『市民統合』政策への収斂とその多様性」

神江沙蘭（関西大学）

「欧州統合と金融ガバナンス—不均衡な発展」

東村紀子（大阪大学）

「『国益』と『人道主義』の狭間で揺れるフランスの移民政策（主題）—EU 共通移民政策の策定過程におけるパラドックスと今後の展望」

討論 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）

●分科会セッションA（15：45～17：15） 別掲

●分科会セッションB（17：30～19：30） 別掲



---

10月31日(土)

---

受付開始：9:00

午前の部会 (9:30~12:00)

**部会6 "Re-examining Korean and Japanese Grand Strategies" 【日韓合同部会】**

Chair: Hiroshi Nakanishi (President, JAIR/Kyoto University)

Paper Presenters: Matake Kamiya (National Defense University)

“Japan’s Grand Strategy and the U.S.-Japan Alliance (TBC)”

Kim Taehyun (Chung-Ang University)

“Systemic Change, the Search for Grand Strategies and Theories of International Relations”

Chun Chaesung (Seoul National University)

“Complex Evolution of East Asian Regional Architecture and South Korean Foreign Policy”

Discussants: Yasuhiro Izumikawa (Chuo University)

Park Young-June (Korea National Defense University)

**部会7 Seventy Years of Post-World War II U.S.-Japan Relations 【英語部会】**

Chair: Haruo Iguchi (Kwansei Gakuin University)

Paper Presenters: Tsuyoshi Kawasaki (Simon Fraser University)

“Postwar Japan-US Relations: A Perspective from Gilpinian Realism”

Marc Gallicchio (Villanova University)

“The Search for a Usable Past: The U.S. and the Lessons of the Occupation of Japan”

Sayuri Guthrie Shimizu (Rice University)

“The Hidden Cost of a Usable Past: A Gendered Reflection on Postwar US-Japanese Relations”

Discussants: Liang Pan (University of Tsukuba)

Isao Miyaoka (Keio University)

**部会8 東アジアの公民運動と「中国ファクター」**

司会 中居良文 (学習院大学)

報告 若林正丈 (早稲田大学)

「『辺境東アジア』政治のアカウンタビリティ問題—2014年の台湾、香港、沖縄」

倉田徹（立教大学）

「『中国化』と香港の社会運動—『中港矛盾』、『雨傘運動』とその先」

呉茂松（慶応義塾大学）

「現代中国政治における維権運動の位相」

討論 鹿島正裕（放送大学）

松田康博（東京大学）

## 部会9 ドイツ統一をめぐる国際政治

司会・討論 妹尾哲志（専修大学）

報告 芝崎祐典（成城大学）

「ヨーロッパの中のドイツ統一」

吉田徹（北海道大学）

「『分け隔てる壁は天空に届かず』—ドイツ統一をめぐるミッテラン外交」

吉留公太（神奈川大学）

「冷戦終焉期におけるアメリカの対ヨーロッパ政策とドイツ再統一」

討論 清水聡（青山学院大学）

## 部会10 国際秩序と領域性の変容—圏域・境界・統治

司会 岩下明裕（北海道大学）

報告 高橋良輔（青山学院大学）

「ポスト冷戦秩序の融解と古典地政学への回帰—未来としての過去？」

川久保文紀（中央学院大学）

「9.11 テロ以後の領域性と国境の揺れ動き—IR とボーダースタディーズからの示唆」

内田智（早稲田大学）

「国境横断的な熟議デモクラシーの正統性と代表性—EU の社会実験からみた制度化への争点と課題」

討論 宮脇昇（立命館大学）

前田幸男（大阪経済法科大学）

## 部会11 国際協調の諸相（自由論題部会）

司会・討論 芝崎厚士（駒澤大学）

報告 井上一郎（関西学院大学）

「中国の対外紛争におけるエスカレーションとその沈静化プロセス」

大原俊一郎（亜細亜大学）

「勢力均衡からヨーロッパ協調へ—勢力均衡思想の社会化過程」

重松尚（東京大学）

「ソ連＝リトアニア相互援助条約の交渉過程」

討論 青山瑠妙（早稲田大学）

志摩園子（昭和女子大学）

●分科会セッション C（13：30～15：10） 別掲

**【共通論題】 日本の安全保障—戦後 70 年からどこに向かうのか—**

15：20～18：10 1階大ホール

司会 遠藤誠治（成蹊大学）

パネリスト

北岡伸一（国際大学）

石田淳（東京大学）

佐藤学（沖縄国際大）

高原明生（東京大学）

池内恵（東京大学）

山口昇（国際大学）

総会（18：10～18：40）

懇親会（19：00～20：30）

---

**11月1日（日）**

---

**受付開始：9：00**

●分科会セッションD（9：30～11：00） 別掲

●分科会セッションE（11：15～12：45） 別掲

**午後の部会（14：00～16：30）**

**部会12 戦後日本の「リアリズム」の射程—歴史・理論・実践**

司会 鈴木宏尚（静岡大学）

報告 春名展生（東京外国語大学）

「リアリストの誕生—国際政治学の戦前から戦後へ」

中本義彦（静岡大学）

「日本のリアリズムとアメリカのリアリズム」

佐道明広（中京大学）

「戦後日本のリアリストと安全保障政策—戦後の国際政治学と実践」

討論 福田毅（国会図書館）

森田吉彦（大阪観光大学）

### 部会13 多中心化するグローバル・ガバナンスにおける国際機関の役割

司会・討論 都留康子（上智大学）

報告 山田高敬（名古屋大学）

「水資源管理における目標志向型ハイブリッド・ガバナンスの可能性」

亀山康子（国立環境研究所）

「気候変動レジームにおけるグローバル・ガバナンスの現状と課題」

内記香子（大阪大学）

「持続可能な食と農業分野におけるオーケストレーション—国際機関とプライベート・アクターの関係に注目して」

討論 三浦聡（名古屋大学）

### 部会14 終戦をめぐる国際関係—日中戦争・太平洋戦争を中心に

司会 戸部良一（帝京大学）

報告 鈴木多聞（京都大学）

「『昭和天皇実録』と日本の終戦」

松村史紀（宇都宮大学）

「終戦後、中ソ同盟の対日戦略」

李錫敏（慶應義塾大学）

「ソ連の対日参戦における政治的条件に関するローズヴェルトとトルーマン政権の認識の相違」

討論 庄司潤一郎（防衛研究所）

森山優（静岡県立大学）

### 部会15 集団安全保障の展開と現状【兼・市民公開講座】

司会 山本慎一（香川大学）

報告 山下光（防衛研究所）

「国連平和維持活動の変化と国際安全保障における意味合い」

山口正大（国連マリ多元統合安定化ミッション[MINUSMA]DDR 担当官）

「集団安全保障とアフリカ地域機構—その対応と課題、ソマリアとマリの事例から」

植田隆子（国際基督教大学）

「NATO、EU、OSCE— 集団安全保障・集団防衛・協調的安全保障」

討論 渡邊啓貴（東京外国語大学）

東大作（東京大学）

#### 部会 16 冷戦変容期の開発援助とアジアの自立化—戦後アジア国際秩序の再編との関連で

司会 木畑洋一（成城大学）

報告 菅英輝（京都外国語大学）

「アメリカの対韓援助政策と朴正熙政権の対応—冷戦の変容と『アジアの台頭』の文脈」

山口育人（奈良大学）

「エカフェからみる 1960 年代・70 年代アジア国際情勢の変容—工業化路線・地域経済協力の議論を手掛かりに」

前川一郎（創価大学）

「イギリス援助のアジアン・シフト」

討論 宮城大蔵（上智大学）

## 日本国際政治学会 2015 年度研究大会分科会プログラム

### ◆10月30日(金)

#### 分科会セッション A (15:45~17:15)

##### A-1 欧州国際政治史・欧州研究

責任者 芝崎祐典 (成城大学)

テーマ 自由論題

司会 芝崎祐典 (成城大学)

報告 山本健 (西南学院大学)

「レーガン政権の経済制裁と英仏の対応——天然ガス・パイプライン建設をめぐる西側同盟、1981~1982年」

中川洋一 (立命館大学)

「21世紀のグローバル・ガバナンスにおけるドイツの安保政策と方向性」

討論 川嶋周一 (明治大学)

##### A-2 ロシア東欧

責任者 湯浅剛 (広島市立大学)

テーマ ヨーロッパとの関係構築——19世紀と現代

司会 湯浅剛 (広島市立大学)

報告 矢口啓朗 (東北大学)

「ベルギーの独立をめぐるロシアの行動」

安部雅人 (東北大学)

「ユーラシアにおけるエネルギー戦略の新機軸——ウクライナ東部情勢を巡るロシアの天然ガス輸出戦略を中心に」

討論 君塚直隆 (関東学院大学)

六鹿茂夫 (静岡県立大学)

##### A-3 東アジア I

責任者 西野純也 (慶應義塾大学)

テーマ 南北朝鮮の政治と外交

司会 西野純也 (慶應義塾大学)

報告 尹錫貞 (慶應義塾大学)

「李承晩政権と日本の再軍備、1953~1955」

飯村友紀 (日本国際問題研究所)

「『618 建設突撃隊』運動の政策展開過程——北朝鮮における大衆動員体制の事例分析」

討論 木宮正史 (東京大学)

平岩俊司（関西学院大学）

#### A-4 理論と方法 I

責任者 石黒馨（神戸大学）

テーマ 国際政治学の方法

司会 浜中新吾（山形大学）

報告 中澤香世（早稲田大学）

「最類似システムデザインと内戦継続期間の独立変数——質的実証研究の科学性」

河合将志（大阪大学・防衛大学校）

「アメリカ外交の潮流と政治イデオロギーの系譜——計量テキスト分析による再考」

討論 鈴木一敏（広島大学）

#### A-5 トランスナショナル

責任者 明石純一（筑波大学）

テーマ 自由論題

司会 石井由香（静岡県立大学）

報告 毛利聡子（明星大学）

「オルタ・グローバリゼーション運動のビジョン——トランスナショナルな水正義運動の事例から」

中山裕美（東京都市大学）

「地域的協力プロセスにおける移民と開発——トランスリージョナルな観点から」

飯笹佐代子（東北文化学園大学）

「『境界』の政治に翻弄されるボートピープル——豪・インドネシア間海域を中心に」

討論 高柳彰夫（フェリス女学院大学）

岡部みどり（上智大学）

#### A-6 若手研究者・院生研究会

責任者 鈴木啓之（日本学術振興会）

テーマ 統治（ガヴァナンス）をめぐる相克——新自由主義・金融・ネーションの観点から

司会 鈴木啓之（日本学術振興会）

報告 徳永翔太（九州大学）

「経済自由主義という鉄の檻——アンドリュー・ギャンプルのハイエク解釈を中心に」

藤田将史（東京大学）

- 「多国間化する最後の貸し手——国内批判回避のための IMF の機能拡大」  
討論 田所昌幸（慶應義塾大学）  
山田高敬（名古屋大学）

## 分科会セッション B (17:30～19:30)

### B-1 日本外交史 I 責任者 加藤聖文（国文学研究資料館）

- テーマ 「ワシントン体制」再考——新秩序の模索・形成・変容  
司会 木村昌人（渋澤財団）  
報告 中谷直司（同志社大学）  
『「新秩序」は形成されたのか——ワシントン会議（1921～22）をめぐる日米英関係の再検討』  
和田華子（学習院大学）  
「第一次世界大戦後における多国間協調システムの誕生と日本外交」  
小野坂元（東京大学）  
「ワシントン体制の変容と ILO 事務局の対中関与——上海租界における労働問題を中心に」  
湯川勇人（神戸大学）  
「外務省『アジア派』のワシントン体制認識と現状打破構想」  
討論 木村昌人（渋澤財団）

### B-2 東南アジア 責任者 山田満（早稲田大学）

- テーマ 自由論題  
司会 山田満（早稲田大学）  
報告 井原伸浩（名古屋大学）  
「1970 年代日本の対東南アジアイメージ外交 ——ASEAN 諸国の対日不信に注目して」  
宮下大夢（早稲田大学）  
「東南アジア地域における「保護する責任」の展望 ——国家および非国家アクターの規範受容に関する分析」  
討論 本多美樹（早稲田大学）  
平川幸子（早稲田大学）

### B-3 アフリカ 責任者 牧野久美子（アジア経済研究所）

- テーマ アフリカにおける安全保障と援助



- 司会 牧野久美子（アジア経済研究所）  
 報告 白戸圭一（三井物産戦略研究所）  
       「サブサハラ・アフリカのイスラム武装勢力の動向と特質について」  
       佐野康子（獨協大学）  
       「西アフリカにおける海洋安全保障——開発援助の役割」  
       秋月三左子（早稲田大学）  
       「対タンザニア援助におけるドナー間協調——英国と北欧の関係を中心に」  
 討論 片岡貞治（早稲田大学）  
       稲田 十一（専修大学）

**B-4 理論と方法Ⅱ** 責任者 石黒馨（神戸大学）

- テーマ 国際政治の理論——理論・言説・制度  
 司会 石黒馨（神戸大学）  
 報告 柴田純志（学習院大学）  
       「勢力均衡——理論化の試み」  
       大山貴稔（筑波大学）  
       「冷戦後の日本における国際関係認識の変容——“リアリズム”的言説の浸透とその含意」  
       秋山卓哉（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）  
       「国際制度の変容を理論化する——強化された PKO が正統性を獲得するまで」  
 討論 芝井清久（統計数理研究所）  
       小浜祥子（北海道大学）

**B-5 安全保障Ⅰ** 責任者 鶴岡路人（防衛研究所）

- テーマ 核軍縮、核不拡散問題の諸相  
 司会 鶴岡路人（防衛研究所）  
 報告 濱村仁（東京大学）  
       「『休戦ライン』としての核不拡散体制——衝突する規範の棲み分けと異議申立ての構造」  
       津崎直人（甲子園大学）  
       「ドイツに配備された核兵器の撤去、及び核兵器共有政策の放棄に関する連邦議会における議論（1983-2014年）」  
       一政祐行（防衛研究所）  
       「核兵器の人的影響論議と高高度電磁パルス（HEMP）脅威の再評価」  
 討論 秋山信将（一橋大学）

鶴岡路人（防衛研究所）

## B-6 国際政治経済 I

責任者 和田洋典（青山学院大学）

テーマ AIIB 問題を考える視点——日米中の内政、外交、国際機構

司会 岡本至（文京学院大学）

報告 原田幸憲（山口大学）

「中国の国際開発金融機関へのコミットメント——中国の対外援助実施能力分析を通じた一考察」

増永真（文京学院大学、拓殖大学）

「人民元問題を巡る米国の対中交渉——『2 レベル・ゲーム』を使った事例研究」

Hyoung-kyu Chey（政策研究大学院大学）

“The Renminbi in Ordinary Economies: A Demand-Side Study of Currency Globalization”

岡本至（文京学院大学）

「国際開発金融機関の三つの顔：代理人、行為者、企業——AIIB 問題に向けて」

討論 岡部恭宜（東北大学）

益尾知佐子（九州大学）

## B-7 政策決定

責任者 信田智人（国際大学）

テーマ 対外政策の国内政治要因

司会 信田智人（国際大学）

報告 草野大希（埼玉大学）、藤田泰昌（長崎大学）

「シグナリングとしての靖国参拝——日本のリーダーは、いつ、なぜ、あえて靖国神社を参拝するのか」

日高薫（大阪大学）

「非人道的兵器の禁止をめぐる国内政治過程——政軍間の情報の非対称性に着目して」

宮崎孝（名古屋経済大学）

「米国中東政策における 2015 年 7 月イラン核合意の含意」

討論 吉崎知典（防衛研究所）

## B-8 国際交流 I

責任者 岸清香（都留文科大学）

テーマ 戦間期の民間国際交流と日本

司会 飯森明子（常磐大学）

- 報告 番定賢治（東京大学）  
「多国間民間国際交流のなかの日本——日本国際連盟協会と国際連盟協会  
連合会」  
中村信之（大阪大学）  
「『国民外交』における国家主義と『国際主義』——戦前期日米学生会議を  
題材に」  
高光佳絵（千葉大学）  
「企業人の国際的人脈と国際関係——岩永裕吉と日英関係」
- 討論 飯森明子（常磐大学）  
杉村美紀（上智大学）

◆10月31日（土）

分科会セッションC（13:30～15:10）

**C-1 日本外交史Ⅱ** 責任者 加藤聖文（国文学研究資料館）

- テーマ 戦争と日本外交
- 司会 加藤聖文（国文学研究資料館）
- 報告 鍾欣宏（立教大学）  
「東アジア冷戦における日華平和条約と吉田外交」  
小林昭菜（法政大学）  
「第二次世界大戦後のソ連における日本人軍事捕虜に関する最近の研究」  
岡橋純子（聖心女子大学）  
「スイス公使館の軽井沢疎開（1944～45年）と中立国としての立場」
- 討論 麻田雅文（岩手大学）

**C-2 アメリカ政治外交** 責任者 中嶋啓雄（大阪大学）

- テーマ 1970年代のアメリカ外交
- 司会 中嶋啓雄（大阪大学）
- 報告 長史隆（立教大学）  
「アジア太平洋秩序の変容と日米関係——米国による対日関係の再定義  
1973～1976年」  
増古剛久（一橋大学）  
「カーター政権の対ソマリア外交——オガデン戦争におけるソマリアへの  
軍事援助決定から中止までの三週間」
- 討論 滝田賢治（中央大学）

三須拓也（札幌大学）

### C-3 東アジアⅡ

責任者 西野純也（慶應義塾大学）

テーマ 第二次世界大戦敗北を挟む 140 年間の国際関係と日本

司会 猪口孝（新潟県立大学）

報告 浅野豊美（早稲田大学）

「戦後日本・折りたたまれた帝国とその後の軌跡——戦後賠償・南米移住・地域総合開発・経済協力そして原子力」

等松春夫（防衛大学校）

「戦前の委任統治・戦後の信託統治と日本の対外政策の展開」

杉山伸也（慶應大学）

「第二次世界大戦後の国際経済システム・東アジア圏における日本の経済——経済指標からの分析」

討論 山本吉宣（新潟県立大学）

飯田敬輔（東京大学）

### C-4 中東（使用言語：英語）

責任者 辻上奈美江（東京大学）

Title Rising Tension in the Gulf and Arabian Peninsula: Nuclear Development, Military Action, and Mediating

Chair Hirotake Ishiguro (Institute of Developing Economies)

Presenter Luciano Zaccara (Qatar University)

“The Iranian Nuclear Deal: Regional Implications, New Strategic Alliances and Threat Perceptions”

Hamed Al Abdullah (Kuwait University)

“The Ideology of ISIS”

Takuya Murakami (The Middle East Institute of Japan)

“Oman’s Foreign Policy in the Crisis: Neutralism, Alliance and Mediation Diplomacy”

Discussant Abdulreda Assiri (Kuwait University)

Satoru Nakamura (Kobe University)

### C-5 ラテンアメリカ

責任者 岡部恭宜（東北大学）

テーマ 近年のラテンアメリカにおける政治経済の変化

司会 松尾秀哉（北海学園大学）

報告 山岡加奈子（アジア経済研究所）

「キューバ・米国関係——価値観とアイデアのギャップを中心に」

宮地隆廣（東京外国語大学）

「ラテンアメリカ諸国の徴税能力に見られる新しい動向に関する考察」

馬場香織（アジア経済研究所）

「ラテンアメリカにおける年金制度再改革」

討論 岡田勇（名古屋大学）

## C-6 国際統合

責任者 中村英俊（早稲田大学）

テーマ ヨーロッパ統合における「連帯」

司会 福田耕治（早稲田大学）

報告 土谷岳史（高崎経済大学）

「シェンゲンのリスクと EU の連帯」

福田八寿絵（国際医療福祉大学）

「EU の社会保障と連帯——国境を超える患者の医療保障を事例として」

吉沢晃（早稲田大学）

「競争政策における EU の連帯——加盟国による外資排除と欧州委員会の役割」

## C-7 安全保障Ⅱ

責任者 鶴岡路人（防衛研究所）

テーマ 米中関係の中・長期的展望——協調か衝突か

司会 高木誠一郎（日本国際問題研究所）

報告 梅本哲也（静岡県立大学）

「米国大戦略の中の中国」

浅野亮（同志社大学）

「中国大戦略の中の米国」

高橋杉雄（防衛研究所）

「米中軍事戦略の相関」

討論 高木誠一郎（日本国際問題研究所）

布施哲（テレビ朝日）

## C-8 平和研究

責任者 南山淳（筑波大学）

テーマ 戦後日本におけるアイデンティティと平和

司会 南山淳（筑波大学）

報告 崔紗華（早稲田大学）

「日本における朝鮮人学校の存続——対日講和後の日朝関係の狭間で」

討論 金恵京（日本大学）

南山淳（筑波大学）

### C-9 環境

責任者 石井敦（東北大学）

テーマ 自由論題

司会 石井敦（東北大学）

報告 真田康弘（早稲田大学）

「南極海捕鯨事件とその後：国際司法裁判所（ICJ）判決をどう評価するか  
——豪州勝訴の要因に関する考察と日本の捕鯨外交における含意」

児矢野マリ（北海道大学）

「南極海捕鯨事件とその後：国際司法裁判所（ICJ）判決をどう評価するか  
——その「政策志向性」と国際法上の意義」

渡邊智明（九州大学）

「グリーンな競争政策としてのグローバル標準化？——環境製品規格に関する EU 標準化の政治過程を事例に」

討論 和達容子（長崎大学）

阪口功（学習院大学）

### ◆11月1日（日）

#### 分科会セッション D（09:30～11:00）

### D-1 日本外交史Ⅲ

責任者 加藤聖文（国文学研究資料館）

テーマ 戦後日本外交の展開

司会 加藤聖文（国文学研究資料館）

報告 加藤博章（名古屋大学）

「国際緊急援助活動と日本外交——国際緊急援助隊発足を中心に」

大竹徳典

「ニクソン・ショックと日本の対中政策の転換」

長谷川隼人（一橋大学）

「岸政権期（1957～1960）の『東南アジア開発基金』構想の再考 - 政策立案  
過程と外交交渉の史的分析を中心に」

討論 高橋和宏（防衛大学校）

### D-2 国際政治経済Ⅱ

責任者 和田洋典（青山学院大学）

テーマ 国際政治経済における規制と規範

司会 古内洋平（フェリス学院大学）

- 報告 長久明日香（京都大学）  
「規制調和と WTO——食品安全規制を巡って」  
小川裕子（東海大学）  
「内面化という虚構——国際規範の制度化と実効性」  
松本栄子（三菱東京 UFJ 銀行）  
「米ドル決済システム構造に見る経済制裁の有効性に関する考察」
- 討論 内記香子（大阪大学）  
勝間田弘（東北大学）

### D-3 国際交流Ⅱ

責任者 岸清香（都留文科大学）

- テーマ 第2次世界大戦期以後の英連邦・日本の国際援助・協力政策——軍事・経済・文化の観点から① イギリス・英連邦の対東南アジア経済・軍事援助
- 司会 渡辺昭一（東北学院大学）
- 報告 佐藤滋（東北学院大学）  
「イギリスの対マレーシア経済・軍事援助政策の展開と『マレーシア』の形成」  
木畑洋一（成城大学）  
「援助の墓場？——1960年代におけるオーストラリアのインドネシア援助政策」
- 討論 永野隆行（獨協大学）  
坂井一成（神戸大学）

### D-4 国連研究

責任者 望月康恵（関西学院大学）

- テーマ 国連 PKO の新たな課題
- 司会 望月康恵（関西学院大学）
- 報告 田辺亮（東海大学）  
「国際的な平和活動への参加と要員提供に関する考察——国連および国連以外の平和活動への人的資源の提供に関する計量分析」  
坂根徹（法政大学）  
「国連 PKO の財政分析——財政支出の側面に焦点を当てて」
- 討論 井上実佳（広島修道大学）

## 分科会セッション D・E (09:30~12:45)

### D・E ジェンダーⅠ・Ⅱ

責任者 戸田真紀子（京都女子大学）

### (連続セッション)

テーマ① 慣習と人権

司会 戸田真紀子 (京都女子大学)

報告 林愛美 (大阪大学)

「文化的暴力に対する住民主体の変革運動——ケニア・マサイ社会の FGM を事例に」

浪岡新太郎 (明治学院大学)

「共和国における〈ムスリム女性〉——フランス政府統合高等審議会 (Haut Conseil à l'Intégration) における言説」

討論 柄谷利恵子 (関西大学)

テーマ② (座談会) 国際政治学にジェンダーの視点は必要か？

司会 戸田真紀子 (京都女子大学)

パネリスト 竹中千春 (立教大学)

田村慶子 (北九州市立大学)

柄谷利恵子 (関西大学)

浪岡新太郎 (明治学院大学)

林愛美 (大阪大学)

### 分科会セッションE (11:15~12:45)

#### E-1 東アジア国際政治史

責任者 岩谷将 (防衛研究所)

テーマ 中国の対日講和

司会 岩谷将 (防衛研究所)

報告 段瑞聡 (慶応義塾大学)

「戦後初期国民政府の対日講和構想——対日講和条約審議委員会を中心に」  
大澤武司 (熊本学園大学)

「中華人民共和国と対日講和——その構想と向ソ一辺倒」

討論 井上正也 (成蹊大学)

杉浦康之 (防衛研究所)

#### E-2 安全保障Ⅲ

責任者 鶴岡路人 (防衛研究所)

テーマ ケネディ・ジョンソン政権のアジア同盟政策の再検討

司会 鶴岡路人 (防衛研究所)

報告 玉置敦彦 (神奈川大学)



「非対称同盟における「力のパラドックス」——1960年代の米比同盟を事例として」

佐久間一修（防衛大学校）

「ケネディ・ジョンソン政権期の在日米軍削減——ドル防衛問題と対日防衛公約の信頼性」

高橋和宏（防衛大学校）

「日米同盟の『重層化』——1960年代の軍事オフセットをめぐる対日同盟政策」

討論 水本義彦（獨協大学）

福田潤一（世界平和研究所）

### E-3 国際交流Ⅲ

責任者 岸清香（都留文科大学）

テーマ 第2次世界大戦期以後の英連邦・日本の国際援助・協力政策——軍事・経済・文化の観点から② ユネスコに至る国際文化協力

司会 馬場孝（静岡文化芸術大学）

報告 都丸潤子（早稲田大学）

「ユネスコ設立過程とイギリス、日本——平和のための教育文化協力」

潘亮（筑波大学）

「戦後初期のユネスコと中国の対日文化教育政策——使命感と警戒心の交錯」

討論 坂井一成（神戸大学）

斎川貴嗣（日本学術振興会）

## 2. 和文学機関誌『国際政治』181号～184号掲載論文

『国際政治』181号	
飯田 敬輔	「序論 国際政治における合理的選択」
鈴木 基史	「レトリックの政策決定ゲーム」
石黒 馨	「官邸主導のTPP交渉と政治経済改革」
岩波由香里	「平和維持活動の創設をめぐる国連と地域的機構の不完備情報ゲーム」
林 光	「覇権国による安心供与装置としてのマルチラテラリズム」
小濱 祥子	「国際危機における単独防衛」
千葉 大奈	「『強い』停戦合意協定は持続的な平和を導くか」
籠谷 公司	「韓国政治指導者の合理的選択としての対日敵対行動」
木村 幹	

畠山 京子「国内規範と合理的選択の相克」  
崔 正勳「リベラル・パラドックスが持つ国際危機研究への示唆」  
樋口 真魚「国際連盟脱退後の日本と通商均等待遇問題」  
書評論文：渡邊 昭夫「E・H・カーとハンス・モーゲンソーとの対話」  
書評：波多野澄雄、岡田勇、高光佳絵

『国際政治』182号

森井 裕一「序論 転換期のヨーロッパ統合」  
臼井陽一郎「EUのマルチレベル・ガバナンス論」  
山本 直「EU『共通の価値』と加盟国の法治体制」  
今井 宏平「西洋とのつながりは民主化を保障するのか」  
坂井 一成「EUの地中海政策におけるフランスの関与と課題」  
岩野 智「EUにおける開発協力政策と共通外交・安全保障政策のリンケージ」  
黒田 友哉「EC／アセアン関係の制度化 一九六七―一九七五年」  
大道寺隆也「国際テロリズム規制における地域的国際機構の役割」  
山本 章子「米国の海外基地政策としての安保改定」  
黒崎 輝「日本核武装研究（一九六八年）とは何だったのか」  
書評：井上実佳、松本明日香、毛里和子、木畑洋一

『国際政治』183号

宮城 大蔵「新興国台頭と国際秩序の変遷」  
田所 昌幸「パワーシフトと国家の人口規模」  
草野 大希「日米の台頭と地域的国際秩序の連鎖」  
潘 亮「国際組織における『新興文化大国・中国』の浮沈」  
高橋 和宏「南北問題と戦後国際経済秩序」  
山口 育人「ブレトンウッズ体制崩壊後の国際通貨制度の再編成」  
大矢根 聡「新興国の馴化」  
大平 剛「新興開発パートナーと国際開発レジーム」  
青山 瑠妙「台頭を目指す中国の対外戦略」  
書評：篠原初枝、溝渕正季、島村直幸、大津留（北川）智恵子、保城広至、西野純也

『国際政治』184号

張 雲「日中の誤認知と相互不信の再生産のメカニズム」  
高 賢来「韓国輸出志向工業化の初期条件の形成」  
劉 仙姫「朴正熙の核開発計画と米国外交」

<p>長久明日香「農業貿易自由化交渉と消費者」</p> <p>林 載桓「権威主義体制、独裁者、戦争——中越戦争を事例として」</p> <p>富田 晃正「米国通商政策における利益集団と制度の交錯」</p> <p>濱村 仁『『休戦ライン』としての核不拡散体制』</p> <p>大嶋えり子「フランスにおけるアルジェリアに関わる『記憶関連法』」</p> <p>松岡 智之「力の非対称性の逆説」</p> <p>伊藤 頌文「キプロス危機とイギリス外交」</p> <p>書評論文：高橋 良輔「国際政治思想研究の所作と射程」</p> <p>野口 和彦「単極世界の国際政治理論」</p> <p>書評：加茂省三、玉腰辰巳</p>
--

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific*

Vol.15.No.2, Vol.15.No3, Vol.16.No1 掲載論文

<p><i>International Relations of the Asia-Pacific</i>, Vol.15.No.2</p> <p>Ralf Emmers and Sarah Teo, “Regional security strategies of middle powers in the Asia-Pacific”</p> <p>Jungkun Seo, “Security ties or electoral connections? The US Congress and the Korea-US Free Trade Agreement, 2007-2011”</p> <p>John D. Ciorciari, “A Chinese model for patron-client relations? The Sino-Cambodian partnership”</p> <p>Kai Quek, “Discontinuities in signaling behavior upon the decision for war: an analysis of China’s prewar signaling behavior”</p> <p>Dean P. Chen, “Security, domestic, and the KMT’s Post-2008 ‘One China’ policy: a neoclassical realist analysis”</p> <p>Koonsam Im, “Korean exchange rate and FTAs under the Roh Moo-hyun administration”</p> <p>Book Reviews</p>
--

<p><i>International Relations of the Asia-Pacific</i>, Vol.15.No.3</p> <p>Kaewkamol Pitakdumrongkit, “Coordinating the South China Sea Issue: Thailand’s roles in the code of conduct development”</p> <p>Hugo Meijer, “Actors, Coalitions, and the Making of Foreign Security Policy: US Strategic Trade with the People’s Republic of China”</p> <p>Ji Young Kim, “Rethinking the role of identity factors: the history problem and the Japan-South Korea security relationship in the post-Cold War period”</p> <p>Iain Watson, “Middle powers and climate change: the role of KIA”</p>
--

Anja Jetschke, Amitav Acharya, Philippe De Lombaerde, Hiro Katsumata and T.J. Pempel, “Studying Asian and comparative regionalism through Amitav Acharya’s work”

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.16.No.1

Seiki Tanaka, “Retirement planning for dictators: what happens to outgoing dictators? “

Chienwu (Alex) Hsueh, “ASEAN and Southeast Asian peace: nation building, economic performance, and ASEAN’s security management”

Chi-hung Wei, “China-Taiwan relations and the 1992 consensus, 2000-2008”

Emma Palmer, “Localizing international criminal accountability in Cambodia”

Bee Yun Jo, “Japan Inc.’s remilitarization? A firm-centric analysis on Mitsubishi Heavy Industries and Japan’s defense industry in the new –TPAE regime”

Book Reviews